

公益
社団法人

長井教育会

長井の史跡

古代の丘



長井市草岡地区にある「古代の丘」は縄文遺跡と資料館等からなり、様々な野外体験もできます。(P9参照)

写真上 土偶広場

写真下左 古代の丘資料館と西山

写真下右 長者屋敷遺跡

内容

- 1 表紙 長井の史跡 古代の丘
- 2 巻頭言 理事長 蒲生直樹
- 3 勤続地区委員に感謝状贈呈、令和4年度定時総会開催
- 4 令和4年度経常収支予算並びに事業計画、役員・評議員
- 5 【特別寄稿】時の課題を乗り越えて 前副理事長 菊地とく
- 6 【特別寄稿】「長井の心」を未来につなぐ 長井市教育長 土屋正人
- 7 新たな若者支援 地区委員の声 高野町西 土屋智代
- 8 奨学生交流の広場
- 9 お知らせ 新入会員紹介 他
- 10 入会のお願い



人口動態統計の衝撃

理事長 蒲生直樹

第四五回目となる今年の定時総会もまた、出席者を少数に絞った上での簡略化した開催となりました。新型コロナウイルスの感染状況から止むを得ないと思う一方、皆様から直にご意見をお聞きする機会を持てなかつたことを申し訳なく思います。さて、令和三年度の本会の事業につきましては、長井ビジネスチャレンジコンテストへの助成などの新たな事業にも取り組みながら、滞りなく終了しました。また、人口減少に歯止めがかからない中、本会の最も大きな課題となってきた会員の拡大・確保と運営の効率化による事務的経費の節減についても、皆様のご協力により予想以上の成果を上げることができました。会員の皆様に改めて感謝申し上げます。

ところで去る六月三日、厚労省が二〇二二年の人口動態統計の概数を発表しました。それによると、昨年生まれた日本人の子どもは、政府の予想数値を大幅に下回る八一、六〇四人でありました。団塊の世代が生まれた昭和二年から二四年頃は年間二七〇万人程の出生者がありましたから、その時代の約三〇パーセントでしかありません。これには今更ながら驚いたのですが、山形県を見ると、もはや愕然とするしかないような数字が出ております。昨年山形県に生まれた子どもは五、八九八人。ネット上で目にした昭和二五年（実は私の生まれた年でもあるのですが）、この年、山形県では四〇、六九四人が生まれていますから、比較すれば、僅か一四、五パーセントでしかありません。

この少子化の数字が、この先、本会が関わる教育の分野にどういう影響を与えていくことになるのでしょうか。本県の公立高校の募集定員を手がかりに見てみますと、今年はこの春の中学校卒業生数、九、三二四人に対して、公立学校（県立四四校、市立一校）の募集定員は定時制を含め一七九学級、一学級四〇人として七、一六〇人でありました。これが一五年後、昨年生まれた子ども、五、八九八人が中学校を卒業するとき、このままの形で再編整備を続けて行けば、私立高校との兼ね合いはあるにせよ、恐らくは県内の公立高校の募集定員は一一〇学級程度に、長井西置賜の県立学校の入学定員は現在の一一〇学級から五、六学級程度に半減してしまうこととなります。とすれば、県内の公立四五校は、そして何よりも現在長井にある二つの高校はどういう形になって残れるのでしょうか。そしてそうした時に、奨学金の貸与事業を核とする本会の事業が今のままの形で良しとされるのでしょうか。あるいは若者支援の新たな形が必要とされることになるのでしょうか。一〇年、二〇年後の社会状況の変化を視野に入れながら、今後一層柔軟な運営に取り組むことが必要になって来るだろうと考えております。

永年のご尽力に 感謝状を贈呈

この度、地区委員としてご協力いただいた十名の皆様に感謝状を贈呈致しました。今年も、新型コロナウイルス対策の関係から総会での贈呈ではなく、ご自宅にお届けしました。永年のお勤めに、心より感謝申し上げます。

〇二十五年勤続

湯澤 恵子 様 (東町)

眞木 道雄 様 (中道東)

〇二十年勤続

横山 美代子 様 (館町北)

小林 ハル子 様 (清水町一)

〇十五年勤続

梅津 豊美 様 (寺泉下)

〇十年勤続

青木 一男 様 (九野本上一)

加藤 肇 様 (上伊佐沢西)

横山 弘昭 様 (ままの上北)

八木 文明 様 (屋城町)

八木 文明 様 (中道西)

令和4年度 第45回定時総会開催

6月11日(土)に長井置賜生涯学習プラザ2階大研修室を会場に、第45回定時総会が開催されました。

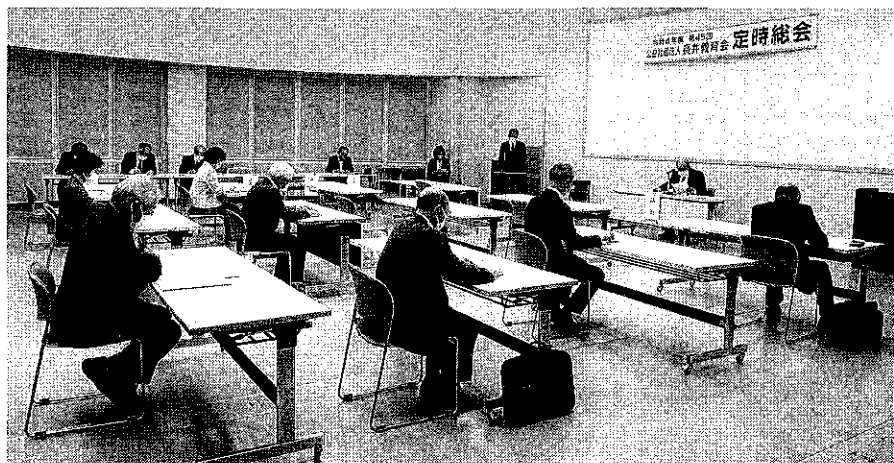
出席者14名、書面表決825名と、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、少人数の出席者による総会になりました。

桑高一郎副理事長が議長を務め、報告と協議が行われました。その結果、議案の令和3年度決算、令和4年度役員等改選に関して提案通り承認されました。なお、令和3年度より、新たに創立50周年事業積立を開始しました。

また、令和3年度活動報告、令和4年度活動計画・予算についても確認されました。

総会終了後に理事会を開催し、理事長・副理事長等の役員が選定され、総会出席者に報告されました。

役員等一覧については4ページをご覧ください。



←写真左 少人数の出席者で総会を実施

↓写真下 再選された蒲生理事長



特別寄稿



「長井の心」を未来につなぐ

長井市教育長 土屋 正人

長井教育会の皆様には、常日頃より本市の教育にご理解と多大なるお力添えを賜り深く感謝申し上げます。

一 子供たちが生きる未来と教育の姿

二〇一五年、国連総会において「誰一人取り残さない」を基本理念に一七の持続可能な開発目標が採択され、二〇二〇年には、文部科学省から子供たちが生きる未来とこれからの教育の姿が示されました。少子高齢化が深刻化する一方、人工知能、IoT、ロボティクス等の先端技術の高度化により社会の在り方が劇的に変わります。それに伴い、六割の子供たちが今存在していない職業に就き、現在の約半分の仕事が自動化されることが予測されています。

新たなウィルスの出現や世界情勢の危うさも加わり、まさに予測不能な時代の中で子供たちは生きていかなければなりません。

今こそ、一人一人が自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら課題を乗り越え、確かな社会の創り手となるような資質や能力を育てていくことが必要です。

二 長井市が大切にしている三つの柱

長井市教育委員会では、このことを踏まえ大切にしていける教育の柱を三つ設定しました。

一つ目は、一人一人の子供が持っている可能性を最大限に伸ばすことです。日常の授業や諸活動で長井市の強みである充実したICT環境も有効に活用しながら、子供一人一人が、優劣を超えて確かな成長を実感する学習体験を積み重ねていきたいと思います。

二つ目は、自他の違いを認め、自分も他者も大切にしていける成長する学校をつくることです。自分はこの中で価値ある存在であること、友達や先生・地域の方とともにいることは楽しいことだと実感できる授業づくり、学級・学校づくりは長井市が目指す心温かな社会につながるために大切な視点です。

三つ目が、学校と地域が心一つにして共に活動するコミュニティスクールの創造です。学校の課題は多岐にわたり実に多様化しています。その解決に、学校だけでなく地域も学校課題を自分事としてとらえ、共に手を携えて進んでいくことが極めて大切です。

三 インクルーシブ教育の実現を目指して

今年度から医療的ケアを必要とする子供に対応する支援体制が組まれました。また、次年度からは長井南中学校敷地内に山形県立米沢養護学校西置賜校（中学部・高等部併置分校）が開設されます。長井市が目指す共生社会の実現に向け新たな歩みが始まりました。

四 市民みんなで考える長井市小中学校将来像

今、長井市では、将来の小中学校の教育の姿、施設の在り方を考える「小中学校将来構想検討委員会」を設置し話し合いが進められています。委員には、文部科学省からアドバイザーを招き、山形大学教授、行政と学校関係者、幼稚園・保育園関係者、社会教育関係、コミュニティセンター、商工関係者等、様々な年代や職業、団体の方々に参画いただき、その立場から、将来の子供像や学校の在り方を自由に語っていただいています。

十年後二十年後の社会状況を見据えた未来の学校施設の在り方をイメージしたものを共有し、選択肢を広げていくことを大切にしていきます。

終わりに 「長井の心」を原点として

名誉市民故長沼孝三先生が、「長井の心」の中で、長井の自然を「美しさ 大らかさ 静けさ」という言葉で表現しています。それは長井市民が営々と育んできた心根でもあります。平和を愛し共存を貴ぶ「長井の心」を大切に、未来を拓く若者を育てていきたいと思えます。